

記者発表

9月16日 台風18号の影響による出水における 北上川上流域の治水事業効果について（速報）

～ 既往第1位(四十四田ダム)と既往第3位(御所ダム)
の洪水から盛岡市街地を守る ～

台風18号は日本列島に甚大な被害をもたらしました。
四十四田ダムでは、上流の三ツ森雨量観測所(八幡平市平笠地内)において観測史上1位となる67mm/hの降雨を記録しました。
ダムへの最大流入量が1,468m³/秒となり、計画流入量1,350m³/秒を上回り、既往第1位の記録的な流入量となりました。
このうち約6割の水量(最大893m³/秒)を四十四田ダムにため込む操作を行い、下流の被害を軽減しました。

- 四十四田ダムでは、最大で893m³/秒を、御所ダムでは1,073m³/秒の洪水を貯留し、ダム下流の水位低減を図りました。
- 四十四田ダムでは今回の洪水により ダム水位が約8m上昇しており、上昇分の洪水をダムにためました。
- 四十四田ダムで補足した流木の量は、約78,000m²(H19.9洪水の約2倍、25mプール約240個分)となり、流木による下流域の被害軽減に大きく寄与しました。
- 御所ダムでは、ダムへの 最大流入が1,919m³/秒となり、既往第3位を記録しました。
- 仮にダムが無ければ、盛岡市の夕顔瀬橋下流付近では 更に約3m水位が上昇し、北上川と雫石川の合流点付近では、はん濫する危険性があったと推測されます。
河川堤防とダムの整備により洪水被害を防ぐことが出来ました。
【浸水のおそれがあったエリアでは、約7,500戸、約3,200億円の被害と想定されます】
- 9月は、過去 岩手県で大規模洪水が発生しています。
カスリン S22.9.14～16、アイオン S23.9.16～17、H19.9洪水 H19.9.17

<発表記者会：岩手県政記者クラブ>

問い合わせ先	
国土交通省 岩手河川国道事務所 副所長(河川) 長内 伸夫 (内線204) 調査第一課長 福田 修 (内線351) Tel 019-624-3166	
国土交通省 北上川ダム統合管理事務所 副所長(技術) 高橋 大三 (内線204) 管理第一課長 中島 勇一郎 (内線331) Tel 019-643-7831 (代表)	

四十四田ダムで既往第1位の洪水を記録

平成25年9月16日 (台風18号)

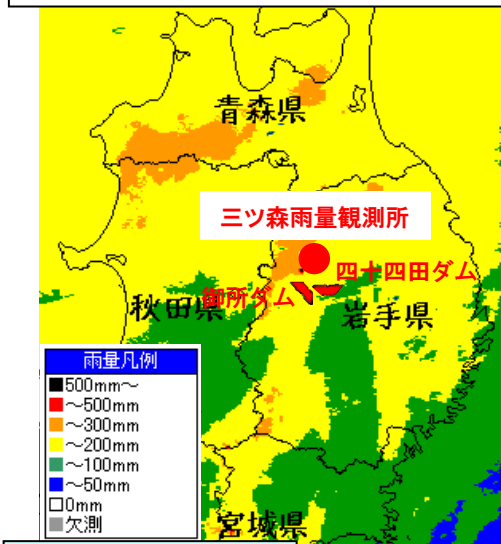
- 今回の洪水で**既往第1位の最大流入量1,468m³/秒**を記録しました。(過去最大のH19.9.17洪水 966m³/秒をはるかに上回る)※約1.5倍
- さらに、ダム計画の基準となった**計画流入量(1,350m³/秒)**をも上回りました。 ※約1.1倍
- 四十四田ダムでは今回、**約8m水位が上昇**しており、上昇分の洪水を溜めました。
- 三ツ森雨量観測所**では、**観測史上第1位の67mm/時間**を記録しました。
- 四十四田ダムの**流域平均累加雨量は129mm**で、降り始めから12時間の雨量としては、**観測史上第1位**を記録しました。
- 盛岡市街地のはん濫を未然に防ぐため、**御所ダムと連携した操作**を行い、下流河川においては**はん濫危険水位程度に抑えました**。
- 四十四田ダムには、**平成19年9月17日洪水の約2倍となる約78,000m²の流木**が流入しました。

※数値は速報値

等雨量線図(15日0時~16日23時)

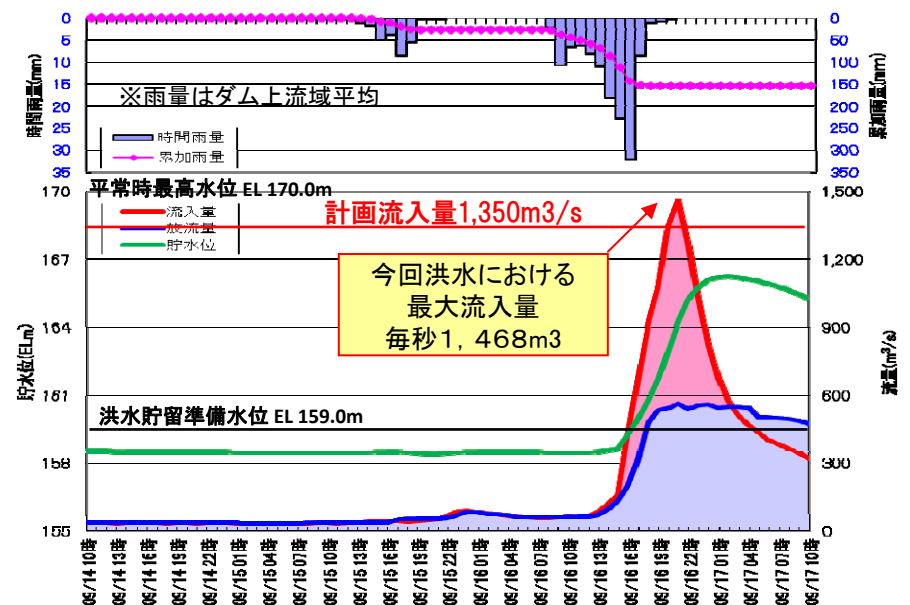
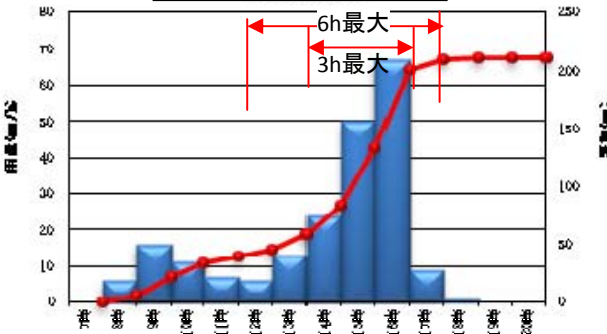


累加レーダ雨量(15日0時~16日23時)



三ツ森雨量観測所

1時間最大雨量= 67mm
 3時間最大雨量=141mm
 6時間最大雨量=169mm
 (以上、観測第1位)



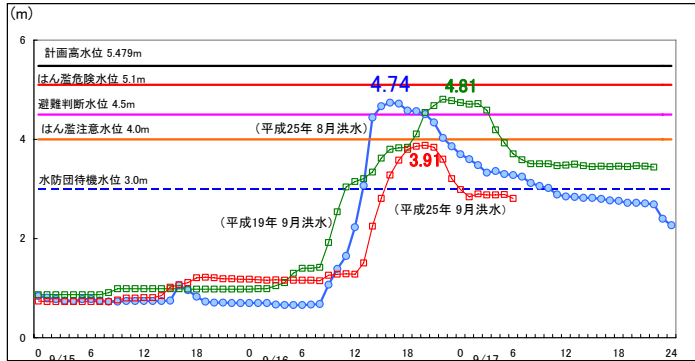
きたかみがわ きたかみがわ
北上川水系 北上川の出水概要

平成25年9月16日 (台風18号)

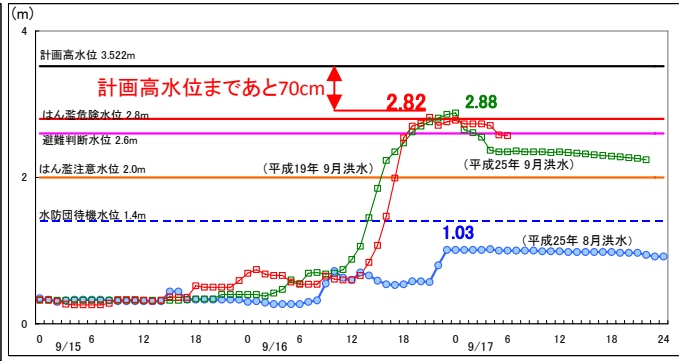
○出水概要

しずくしがわ たてさかばし
 平成25年9月15日午後1:00頃からの降雨により、北上川及び雫石川の水位が上昇し、北上川の館坂橋水位観測所では、平成19年9月洪水(2.88m)に次ぐ、**観測史上2番目の2.82mを観測、計画高水位まであと70cm**となる出水となった。

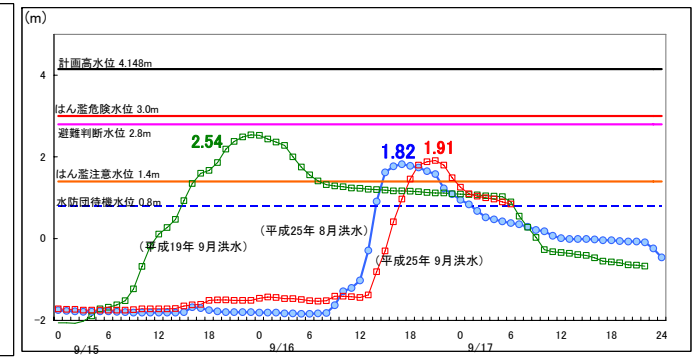
太田橋水位観測所(北上川水系)



館坂橋水位観測所(北上川水系)

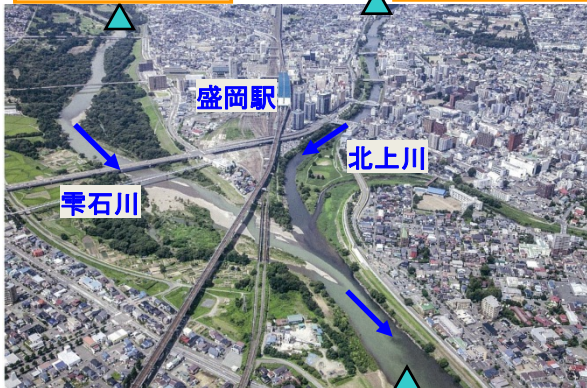


明治橋水位観測所(北上川水系)



太田橋水位観測所

館坂橋水位観測所



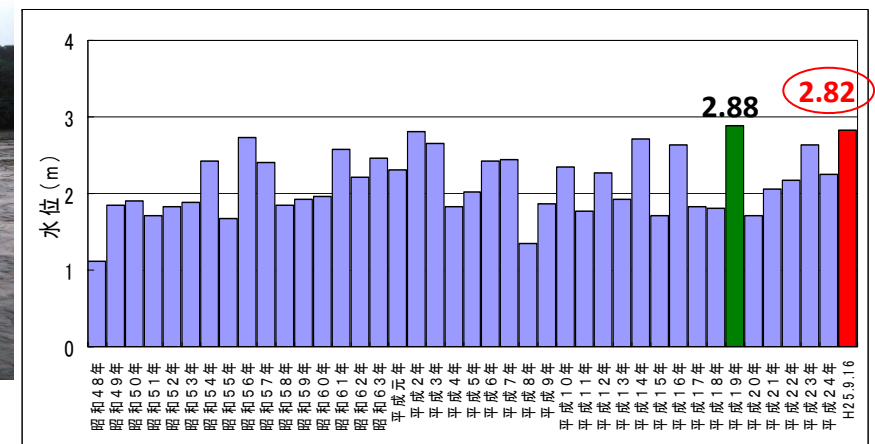
観測所位置図



平成25年9月16日 17時40分頃の船田橋の状況(四十四田ダム流入部付近)

館坂橋水位観測所の年最高水位

平成19年9月出水に次ぐ観測史上第2位の水位

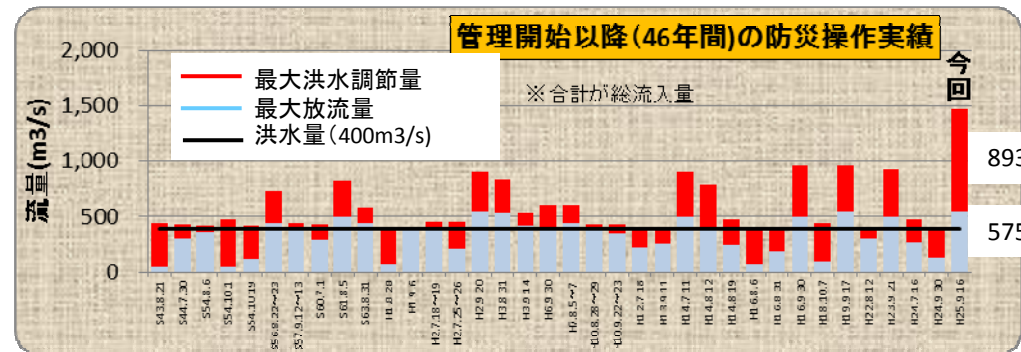
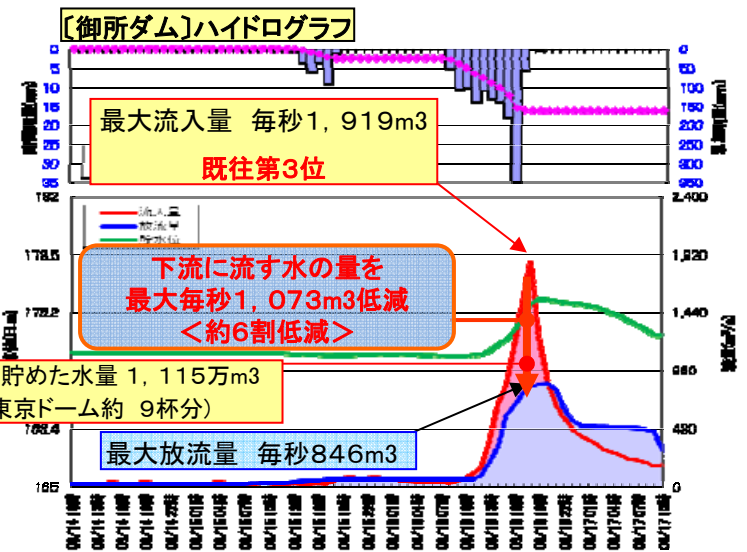
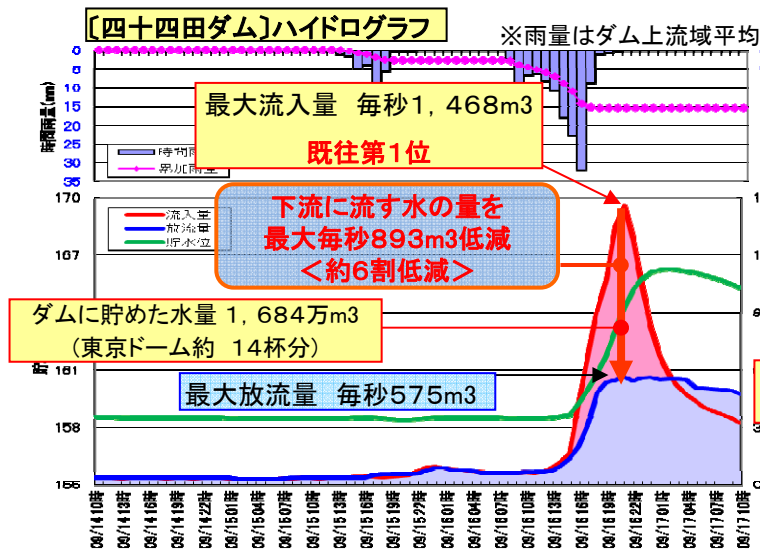


※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

既往第1位（^{しじゅうしだ}四十四田ダム）と既往第3位（^{ごしょ}御所ダム）の洪水から盛岡市街地を守る ～ 四十四田ダムと御所ダムの連携 ～

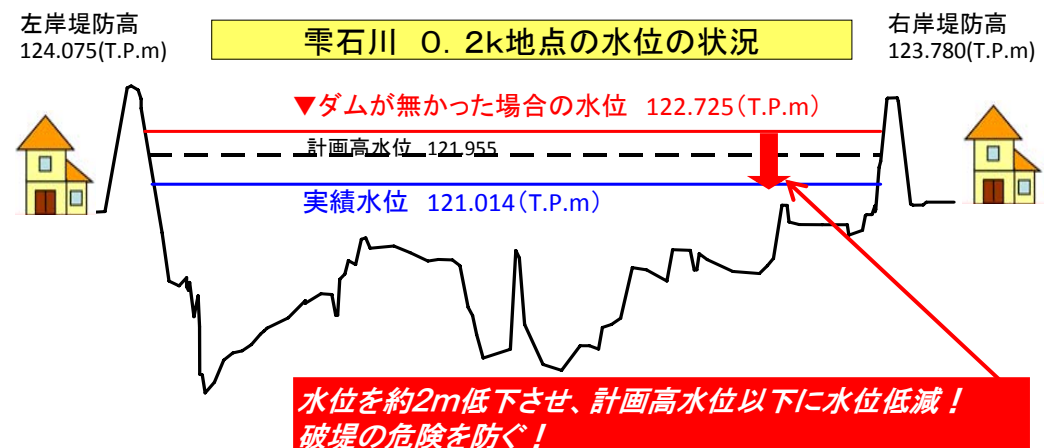
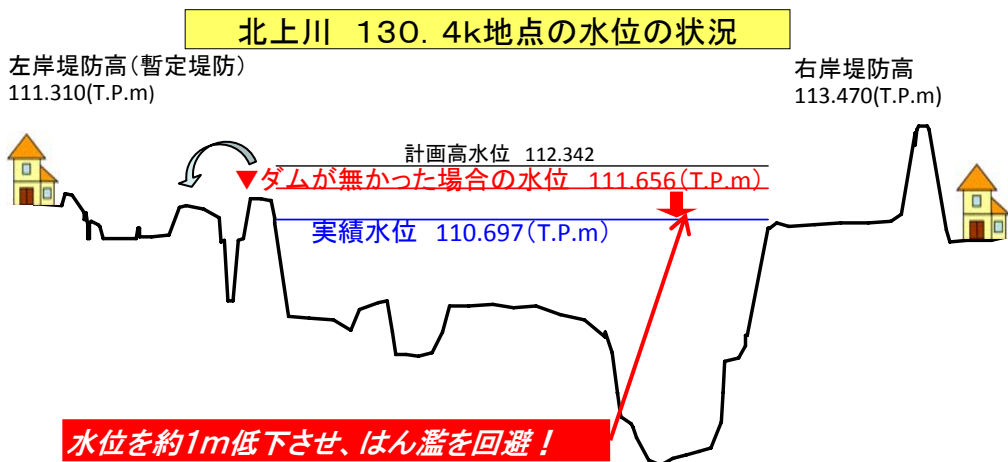
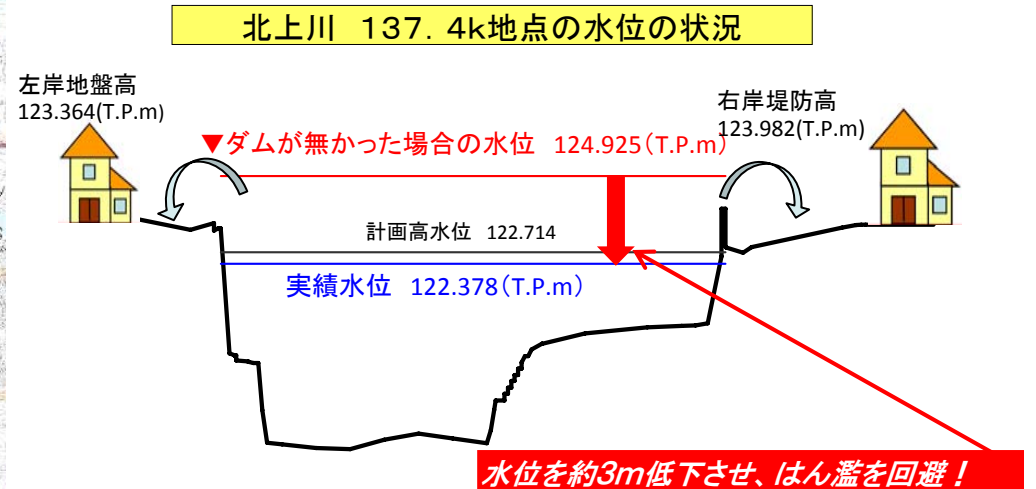
平成25年9月16日（台風18号）

- 四十四田ダムでは**最大893m³/秒**を、御所ダムでは**最大1,073m³/秒**の洪水をダムに貯留しました。
- 四十四田ダムは**最大流入量1,468m³/秒**（既往第1位）、御所ダムは**最大流入量1,919m³/秒**（既往第3位）を記録しましたが、連携した操作を行うことで、ダム下流で**洪水被害を防ぐ**効果があったものと推測されます。
- 盛岡市の夕顔瀬橋下流付近では、はん濫危険水位に達しましたが、ダムが無ければ**さらに水位が約3m上昇し、盛岡市街地の各地点ではん濫する危険性**があったと推測され、河川堤防とダムの整備により、今回の洪水被害を防ぐことができました。（浸水のおそれがあったエリアでは、約7,500戸、約3,200億円の被害と想定されます）



しじゅうだ 四十四田ダムと ごしょ 御所ダムの連携により盛岡市街地を守る

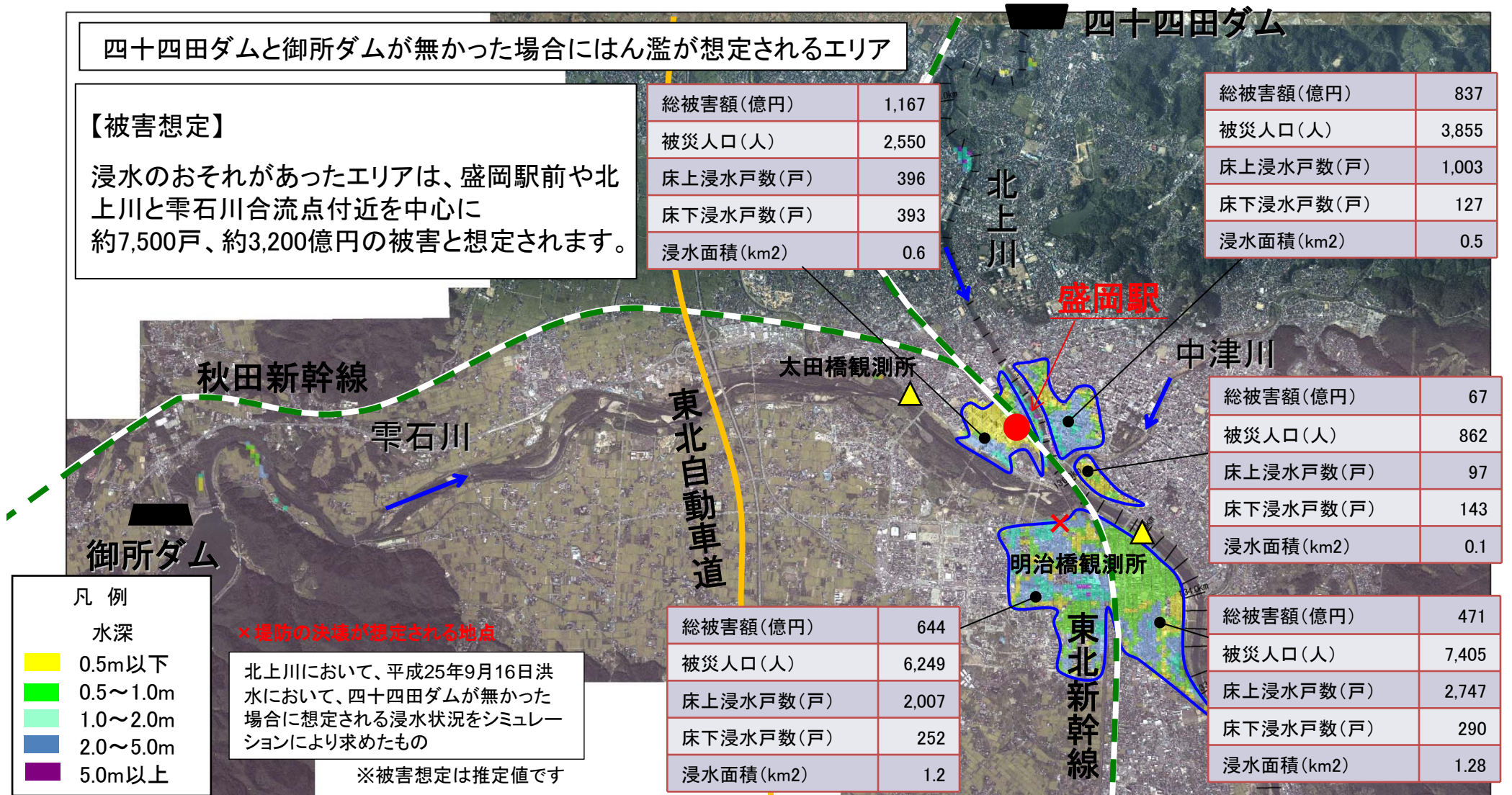
○四十四田ダムと御所ダムの連携した操作を行うことで、ダム下流の **130.4k地点(左岸:手代森 右岸:三本柳)では約1m、137.4k地点(左岸:材木町 右岸:盛岡駅前北通)では約3m、雫石川0.2k地点(左岸:盛岡駅前西通 右岸:仙北町)では約2m水位を低下させる効果があったものと推測されます。**



しじゅうしだ 四十四田ダム・ごしよ 御所ダムの効果

平成25年9月16日 (台風18号)

盛岡市の北上川と雫石川において、もし四十四田ダムと御所ダムが無かった場合は、計画高水位以上の水位に達し、北上川、雫石川、中津川合流点付近で、河川がはん濫する危険性があったと推測されます。



しじゅうしだ 四十四田ダムの流木捕捉効果

平成25年9月16日（台風18号）

洪水時には水だけでなく樹木等も一緒に流れてきます。

今回の出水により、四十四田ダムで捕捉した流木の量は、**約78,000m²**（H19.9洪水の**約2倍**）であり、この量は、**25mプール約240個分**に相当します。

ダムがなかった場合は、流木がそのまま河川へ流れ、橋に引っかかり流下を阻害したり、取水口を閉塞して取水の障害となったり、海まで流下して漁業に影響するなど大きな被害が予想されます。

このように、ダムは洪水の軽減だけでなく、流木による二次的な被害軽減にも貢献しています。

※数値は速報値



四十四田ダム流木状況（H25.9.17）



◆ダムがなかった場合◆
橋に引っかかった流木（事例）



四十四田ダム流木状況（H19.9.18）

四十四田ダム流木捕捉量

H19. 9. 17	H25. 9. 16
約40,000m ²	約78,000m ²

H19洪水の
約2倍

H25.9.17洪水 25mプール約240個分に相当
（L25m×W13mとした場合）